

# 女性ひろば

おかやま女性情報誌

第8号

1995. 3.



- トーク&トーク「自立…自分で考える・判断する・行動する・責任をとる」
- 女性問題に関する市民意識・実態調査報告書から



# トーク&トーク 自立

考える

判断する

自分で

行動する

責任をとる

## —男性女性の結婚観について—

**佐藤** 日弁連の資料からも、最近、女性が結婚しなくてはいけないとあまり思わなくなっているようです。自分で働いて生活できるようになると、生活保障を求めるためではなく、相手とうまく関係を保って、お互いをささえあうために結婚するという考え方に変わっていると思います。

**小田** 以前は結婚が永久就職という面があったと思います。でも、仕事をもつ女性が増え、能力が発揮できる今では、私のまわりにも、仕事に熱中して、結婚が遅い女性がわりといらっしゃるんですね。彼女たちにとって、自立と結婚とはまったく別ものなんだろうという気がします。

**佐藤** 男性は仕事に熱中するために、身の回りの世話をしてくれる人が欲しくて結婚するということがあるんじゃないでしょうか。ただ、若いうちは双方がそれで納得していても、子どもの手が離れると、夫は会社べったり、妻は友だちといえるほうが楽しいわ、というふうに夫婦が向きあわなくなってくる……。

**小田** 私が入っているメンズリブでは、男性が会社一辺倒でなく、自分の居場所をもっていたり、夫婦でも非常にいい関係をもっている方が多いと感じています。子育てや、病気の家族の介護など、夫が家事全般にかかわっていて、同じテーマで夫婦間の話しあいができ、個人個人でありながら「夫婦」というところに価値をおいているんです。

**佐藤** それは素晴らしいですね。私が見聞きするのは、長い間会話もないので、お互い考えてることがわからなくて、結局離婚しちゃう。こんなケースがよくあります。なかなか小田さんが言われたような方々には届かないなあと感じます。

## —家庭における女性と男性の立場は—

**小田** メンズリブの会でも先日、最近はお金の使い方を含めて、女性が決定権をもっていることが多いような気がするという話が出ました。でも、子育てのある時期は、確かに女性のほうが負担が大きくて不平等かなという気はします。



**佐藤** 総務庁の「社会生活基本調査」でも、家事に費やす時間は圧倒的に女性のほうが多いですね。全く平等に分担することは難しいけれど、現状では、まだまだ「手伝ってくれてありがとう！」という段階です。お互いに協力しあって生活するというには不十分じゃないかしら。何事も家族で話し合って納得することが大切ですね。

**小田** 私たち夫婦の間やメンズリブでは、「手伝う」という表現を非常に嫌うんです。「手伝う」というのは女性が主で男性が補助という意識だからと。ただ、妻が専業主婦か、働いているかで、意識はかなり違

高齢化社会や核家族化が進む中で、今、自分の人生を自分の力でどう生きるかが問われています。そこで、今回は「自立」をテーマに、弁護士の佐藤さんと、メンズリブの会に参加しておられる小田さんに対談していただきました。

うんじゃないかと思います。うちは共働きで、下の子が保育園に通っていますが、私を含めて送り迎えをするお父さんが多いです。家の中でも、両方働いていれば片方だけが家事をすることには無理があるので、男女の平等意識が出てきやすいのかなと思います。私の妻も一時専業主婦だったんですが、勤めはじめてから二人の関係が変わってきましたね。

## —女性と男性では、自立することに違いがある・ない？—

**佐藤** 男性の自立というと、身の回りの基本的なことが出来るかどうかという言い方がされますが、これはおかしいと思います。これはできて当たり前、そのうえでどう生きるかという問題だと思います。自立を育てるのは、ある程度教育の問題だと思いますので、女性も男性も同じなんだという育て方が必要ですね。

**小田** 確かに、生活の基本的な部分で自立できていない男性は、多いような気がします。うちの子どもを見ていると、親がしていることを手伝いたがるので、そういう年ごろなのでしょうか、出来るだ

け私も子どもと一緒に食事の準備や片づけとかをしているんです。

## —人間として、自立するとは—

**小田** 私は、会社、家庭、地域や趣味の集まりなど、いろんな世界をもっているのがいいと思うんです。知り合いに主夫をしている男性がいて、子育てや家事をこなし、大学の講師を勤めたりもしているんです。自分の考えをきちんと持つこと、これこそ自立だと思います。

**佐藤** 私は、自分で考えて、判断できて、行動できて、自分で責任がとれれば、それが自立ということじゃないかと思っています。何かあったときに、人のせいにするのではなく、自分の生き方を選んで、納得して生きていければ、女性が必ずしも外で働かなければならないとは思っていません。ただ、自分の家庭だけでなく地域や社会に目を向ける必要はあると思いますね。

## 編集委員から

Q & A

## 対談の後、お二人にお尋ねしました。

**Q.** 5年別居していれば、理由不問で離婚が成立する民法の改正法案が検討されていますし、これからの女性にとっては特に経済的自立が必要と思われそうですが、いかがでしょうか。

**A.** 結婚して、家事に専念するため、退職した女性は、離婚の時にいろいろな職業上のハンディを負うこととなります。このことから5年別居の離婚要件を導入するにあたっては、離婚後、妻が職業上のハンディを回復し、自活する能力を獲得できるまで夫がその生活を補償する制度や、婚姻中の財産の精算の履行を確保するための措置等いろいろな制度の充実が要請されます。しかし改正法におけるこの点の検討は十分とはいえません。女性を保護し、支援する政策、制度が必要ですが、女性の側も経済的自立を考える必要はあると思いますね。

**Q.** メンズリブの会の集まりの中で話し合われたこと、勉強内容について、少し詳しくお話しいただけますか。

**A.** メンズリブの会は、90年代の男のライフスタイルを問い直す会です。世話人は10人で、例会を月1回程度開催しています。今まで話し合われた主なテーマは「働き盛り・子育て期の男たちは今のままでいいのか」、「超高齢化社会の男の生き方」や「男性と地域での生活」などです。会には、男性ばかりでなく女性の方々も大勢参加しており、女だから男だからではなく一人の人間としての生き方について、様々な角度から話し合うので多様な価値観、考え方を学ぶことができます。



# 市民意識・実態調査報告書から

調査は「男女共同社会をめざす岡山市行動計画」の見直し資料のため、住民基本台帳の中から無作為に抽出した成人男女3千人を対象に、平成6年7月～8月に実施しました。

## 結婚・離婚観

[精神的にも経済的にも安定するから女性は結婚した方がよい]かという質問に「全くそう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた『賛成派』が男性73.7%、女性65.4%に対し、[経済的に自立できれば無理に結婚する必要はない]の考え方に『賛成派』は男性44.4%、女性56.9%となっており、意識にかなりの隔たりがみられます。

また「うまくいかない時は離婚もやむをえない」の質問に『賛成派』が71.8%を占めているのに対し、[最

後まで添いとげる努力をするのは当然]の質問の『賛成派』は57.7%となっています。

女性の結婚を支持する意見が多くある一方、状況により離婚を是認する意見も比較的多くなっています。

昭和63年の前回調査と比較して、全体的な傾向として、結婚や結婚生活の維持を支持する層が減少する傾向をみせており、それに伴って女性の自立・離婚を支持する層が増加しています。

		全くそう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	全くそう思わない	わからない	無回答
女性は結婚した方がよい	男	33.9	39.8	11.4	7.3	4.3	3.2
	女	20.6	44.8	15.5	9.6	4.0	5.4
自立出来れば無理に結婚する必要はない	男	18.6	25.8	28.9	18.6	2.5	5.7
	女	22.3	34.6	20.8	12.1	2.9	7.4
うまくいかないときは離婚もやむを得ない	全体	29.9	41.9	9.7	7.4	4.2	6.9
最後まで添いとげる努力をするのは当然	全体	23.9	33.8	15.2	16.0	6.2	4.9

## 職場での男女格差

女性の職場での仕事の内容や待遇について、[不当な扱いをされていると思う]が男性は8.7%、女性は14.9%となっており、女性の方が不当な扱いをされていると思っている人が多くなっています。

不当な扱いの内容としては男女ともに「賃金に差別

がある」が最も多く、続いて男性は「昇進・昇格に差別がある」「女性を幹部職員に登用しない」、女性は「能力を正当に評価しない」を挙げており、男女間での考えの違いがみられます。

## 働いている理由

働いている理由を男女別にみると、男性は「生計を維持するため」が69.1%を占め、「自分の能力や資格を生かすため」が6.9%、「家業であるから」が6.8%となっています。女性は「生計を維持するため」が35.3

%と男性の半分程度で、「家計の足しにする」13.2%、「家業であるから」11.5%と続いています。就労している女性の半数近くが、生計の維持、若しくは家計の足しといった現在の経済的理由をあげています。

	生計を維持するため	子供の学費を得るなど家計の足しにするため	自分の小遣い	老後など将来に備え貯蓄するため	自分の能力や資格を生かすため	社会に役立つため	家業であるから	働くことが楽しいから	人と接したり仲間を得るため	その他	無回答
全体	54.2	0.8	6.3	4.6	3.8	8.1	3.2	8.9	5.4	2.4	1.5
男	69.1	2.8	2.7	6.9	4.8	6.8	3.3	1.3	1.4	1.7	1.6
女	35.5	13.2	6.8	5.2	9.5	11.5	8.1	5.4	1.7	2.0	1.4

## 平日の自由時間

平日に職業や家事、育児などから離れて趣味などの自分のために使える時間—いわゆる自由時間—がどれくらいあるかを尋ねました。

平日での1日の平均的な自由時間は、「1～2時間程度」が、30.7%と最も多く、以下「3～4時間程度」28.2%、「5時間以上」15.7%、「1時間未満」15.4%、「全くない」8.1%となっています。

昭和63年前回調査と比較すると、「全くない」を含めた1時間未満の層と3時間以上の層が増加しており、自由時間を持てる層と持てない層の分化が進んでいます。

男女別で見ると、男性の場合「3～4時間程度」が

29.9%と最も多く、次が「1～2時間程度」となっていますが、女性の場合「1～2時間程度」が32.9%と最も多く、「3～4時間程度」は2番目になっています。また「5時間以上」は男性が17.0%に対して、女性は14.4%と少なく、全体的に女性の自由時間が男性より短くなっています。

また、ライフステージ別に平日の自由時間をみると、「まったくない」が未就学の子供がいる場合16.1%、続いて小・中学生の子供がいる場合10.9%となっており、子育ての段階で自由時間が少なくなる傾向がみえます。

	全くない	1時間未満	1～2時間程	3～4時間程	5時間以上	無回答
全体	8.1	15.4	30.7	28.2	15.7	2.0
男	7.9	15.0	28.3	29.9	17.0	1.8
女	8.3	15.7	32.9	26.6	14.4	2.2
S63前回調査	5.7	14.3	37.0	26.8	15.0	1.3





優秀賞



地域での男女共同参画の小さな取り組み

片山 晴雄 (64歳・学南町)

私は定年退職後、身近な地域社会である町内会(自治会)の会長や老人クラブ会長などさせていただいている。この地域での小さなものだが、二例を述べさせていただく。

一、町内会三役改選に伴う副会長に初めて女性の登用を実現

私達の町内会(251世帯)では昨年4月改選期の総会でも三役(正・副会長3、庶務)が決まらず留任で一年間延長されて来たが、本年度はどうしても改選したいとして、「役員選考委員会」(18名)が先ず設置された。私はその委員会の座長に推挙を受けた。選考委員会は、3回にわたり開催された。副会長の内1名は、この際是非女性の適任者がリーダーとして町内会執行部入りをして、女性の視点で活動いただきたい。又このような男女共同参画は、今日の時代要請と私は力説した。全体会議では賛同いただくが、どうしてどうして名前が上がる女性達は、就任には固辞のみである。これではならじと、私はEさんと定めて、数度にわたり家庭訪問を重ねた。Eさんも同様、最初は固辞されたが、私も役員を引受けるから、共に力を合わせてやりましょうと、熱意をもって勧誘した。彼女はやっと重たい腰をあげ、一期(2年)だけと受諾した。

本年4月の総会では、役員改選の議事はスムーズに運び、わが町内会では副会長ポストに初の女性が実現、就任した。私の隣席の彼女の顔は紅潮し輝いていた。

二、学区老人クラブ連合会の新設婦人部での初事業を企画、実行して

わが小学校区には、20の単位老人クラブが加盟して、連合体が結成され地域での活動がなされている。この連合会に昨年4月、婦人部が結成された。婦人部とは申せ、代表者それぞれ単位で選出して集めることは、困難だったし時間も要した。やっと16単位の老ク代表からなる婦人部の初顔合せの後、2ヶ月に1回の会議が数回にわたり開かれた。会議の内容は、お茶会に終り何回も経た。やがて出席率は低下してその有り方も含め、存在意義に疑問視する意見が男性単位会長から強く出始めた。

私も単位会長としてそれら意見に対し、折角出来た婦人部、1年間は暖かく長い目で見ていかなければと存続の意見を述べた。本年2月婦人部定例会議で、部活の初事業として「市ふれあいセンター」の施設見学会を企画し実行したらと、側面的にアドバイスし、婦人部の初事業が決った。それから見学会の日程表、役割分担表の作成など、又各町内別の参加への応募の呼びかけ廻り等、一つ一つに時間がかかったが、実施に向け物事が進み出した。私は、同センターへの利用申込み、送迎福祉バスの利用申込みを担当した。地域の町内では、何んでおばあさん達が施設見学会への勧誘などして歩くのかなどの批判もでた。私は、耳にする度それでよいのだ、お宅も批判せずどうぞ参加してくださいと答えた。勧誘に1ヶ月以上要したが、結果9町内会から男性20人、女性22人、計42人の参加者名簿が出来上った。

4月11日の見学当日、地元のショッピングセンター前広場に集合した。

施設の福祉バス「ふれあい号」の車中で婦人部長は、初事業がここに実現できた喜びをこめ挨拶した。全員よくできたきたと力を込め拍手喝采した。

一報告一

'94おかやま女性フェスティバル

「ともに築く21世紀～行動の輪を広げよう～」をテーマに、昨年11月3日と6日に開催されました。11月3日は、1994年の国際家族年にあたって「家族」のことを考えようと、樋口恵子さん等をお迎えして講演とシンポジウムが行われました。また11月6日は、午前中に人形劇、午後からは「女性と健康」をテーマにエイズの問題に焦点をあて、メモリアルキルトの展示や池上千寿子さん等による講演がありました。

▶「'94おかやま女性フェスティバル記録集」を差し上げます。ご希望の方は返信用切手270円分を同封し、女性政策課へ請求してください。



岡山市女性大学

(((第2期生に聞く)))

女性の自立と社会参加を促進するため、その能力養成を図って平成5年10月に開講された岡山市女性大学も平成6年9月に第1期生を送りだし、同10月からは第2期生が受講中です。講座のお昼休みを利用して、受講生4人にお話を聞きました。

子育て中に参加した婦人学級で女性問題に興味を持ち始めた。いろいろな年代の女性と話しがしたい！ネットワークをつくるのが大切と思って応募した。他の受講生と話していて、私は若いので一途すぎて全体のバランスがとれていないのだと気付いた。身近な公園の遊具をもっと工夫して、「変化のある公園」が出来ないと模索中。(白神さん)

受講してみて、自分を客観的に見つめ、自己啓発になった。今まで職場の中でも、女性は男性の後でと区別されていたように思うが、女性も男性と同じように自分の意見を持って、はっきり言うことが大切だと感じた。ほんの一步ずつだけれど今はそれを実行しつつある。高齢者・障害者福祉行政に関心がある。(吉崎さん)

中学生2人と小学生1人の母親であり、仕事もしているが、これから子離れの時期にむけて社会参加のきっかけにしたい、何かもう一つプラスワンのものが欲しくて受講を決めた。子供たちに母親が真剣に生きている姿を見せたいと思う。ゴミ問題やリサイクルについてのこれからの取り組みをもっと知りたい。(岡崎さん)

保健婦、福祉施設の職員、ホームヘルパー等の職を経て去年退職。今は、地域の「高齢者の毎日給食」にボランティアとして参加。これらの経験を生かし、今後は地域で支え合うボランティアグループを作り育てていきたい。公民館を拠点にして、10年20年先に活用出来る組織を作るのが夢！ここの講座は自分の専門以外にも目を開き、広く行政を眺め、住民として考える機会を与えてくれた。(人見さん)

第3期生の募集については、6月中頃の「市民の広場おかやま」で広報する予定です。

～第1期生の自主研究レポートより～

3月に入ると、受講生はテーマ別のグループに分かれ、その中で意見交換をしながら、個別の研究テーマを決めていきます。その後は講座の受講と平行して、資料を集め、文献を調べ、各種の調査をしたりして、自主研究レポートをまとめて、10月の修了となります。第1期生のレポートのタイトルをご紹介します。

教育・自主ゼミ

- 核家族二世帯目の家庭教育をめぐる今日的課題～鉛筆を小刀で割れなくなってから～(桑原美津子)
●不登校を考える(五藤裕子・時岡世津子)
●女性とボランティア活動～人形劇活動を通して～(柴部美代子)
●人間らしく自分らしく～性差別意識をなくして～(高月出起枝)
●21世紀はあなたのもの～高校生の実態調査を踏まえての考察～(平松和子)
●家庭科共修の新しい風～生活の中で自ら「選ぶ」ことの出来る子供を育てるために～(吉川玲子)

女性の行政参加

- 「公園のトイレ」考(荒木友子)
●家庭から出すゴミと生活排水について(織田ミサ子)
●地方公共団体の刊物にみる女性問題(品川美和子)
●男女共同参画型社会を目指して審議会の活性化と女性

女性の社会参加

- (中西嘉津子)
●男性主権型社会から男女共生社会へ(水山日出子)
●女性・男性の社会参加について～子育て期からの社会参加の勧め～(山田良子)

女性と家族法

- 法における「家」制度と女性～戸籍から個籍へ～(時實達枝)
●ひとり親家庭の現実(二宮節子)
●女性と年金(服部絢子)
●高齢者の在宅介護と関連する民法制度について(姫井恵美子)
●夫婦別姓～家制度からの解放～(柳生祝子)

高齢化社会

- これからの高齢社会を考える『地域ケアの現状と期待する今後』(喜多嶋麻子)
●これからの高齢社会を考える～私はどこへ…終の住み処は選べるか～(高津芳江)
●これからの高齢社会を考える～中山君子に見る老後の自立～(中山美保)

個人研究

- 高齢期の女性の自立を支える制度の現状と問題点(船田幸枝)
●岡山市の在宅福祉サービスを考える(美澄岸子)
●終の住みか～2010年のライフスタイル～(山本幸子)
●男・女という意識について(近藤正美)
※海外留学のため受講途中に、子供4人と一緒に日本を離れた受講生のレポートは、ハワイから届きました。

◆◆◆◆11月3日の参加者アンケートから◆◆◆◆

- ◆今日、参加して得たことを参考にし、広く社会に目を向け、自分なりの考え方、生き方を確立していきたいです。元気ができました。
◆このままの自分ではいけない。もっと社会に目を向けなければ……と思いました。今日の話ヒントに、夫婦の人生と子供たちの人生について、今夜、家族で考えてみたいと思います。◆女性の意見を反映するためには、夫と連れだって参加すればよいと思いました。◆これからの夫婦は、「高めあう夫婦である」との一言が心に残りました。◆「世間体乗り越えて、自分で決める」という話も、励まされる言葉です。

◆◆◆◆11月6日の参加者アンケートから◆◆◆◆

- ◆人形劇も見ました。こういう形で子供たちに教育することは、とてもよいと思います。また、子どもたちの反応が楽しくて、ほのぼのとした気分になりました。◆人間愛としてのエイズの教育を感じていなかった私としては、とてもうなずけるし、またとても勉強になる話でもありました。◆キルトの言葉に、すごく心が暖まりました。やさしい気持ちにもさせてもらいました。一言一言に心がこめられていて、思いが伝わってきました。

次回も是非、ご参加を
行動の輪をさらに広げよう



# 第4回世界女性会議(北京会議)

1985年にナイロビで開催された第3回世界女性会議から10年。1995年には第4回世界女性会議が、アジアで初めて北京で開かれます。

世界会議では、政府間会議と民間(NGO)の会議が並行しておこなわれます。

## ◇政府間会議

テーマ

「平等・開発・平和への行動」

とき 1995年9月4日～15日

ところ 北京国際会議センター

## ◇北京NGOフォーラム'95

テーマ

「女性の目から世界を見よう」

とき 1995年8月30～9月8日

ところ 北京勤労者スポーツ

サービスセンター

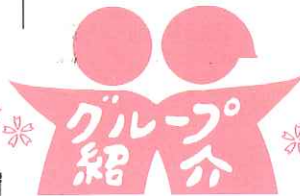
▶詳しい情報を知りたい方は女性政策課へ……

## 岡山女性フォーラム



—12月の講演会にて—

男女共生社会の実現をめざし、そのための調査研究、フリートーク、読書会、ミニ講演会、施設見学、他団体との交流、ビックイベント等を開催しています。代表者 中山美保



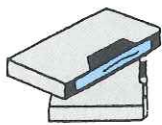
## おかやま女性会議

“愛、平等、尊厳”を合言葉に、住み慣れた町で、女も男も心おきなくふれあい快適に暮らせる社会をめざして、クリエイティブに生きていこうと学び行動しています。

代表者 品川美和子



児童福祉施設  
(養護施設)  
—若松園を訪問して—



## 新着ビデオのお知らせ

### ★「森の中の淑女たち」

女性として自立するとはどういうことなのか、さらに同じ一つの社会に生きる人間同士が尊敬しあって生きるとはどういうことなのか。様々なテーマで深めることができる。(101分)

### ★「おじさんたちも元気だぞ

～ホームヘルパー編～

女性の仕事とされていた分野・ヘルパーの仕事に生きがいを見いだした男性をとりあげたもの。(約19分)

### ★「年なんて問題じゃない」

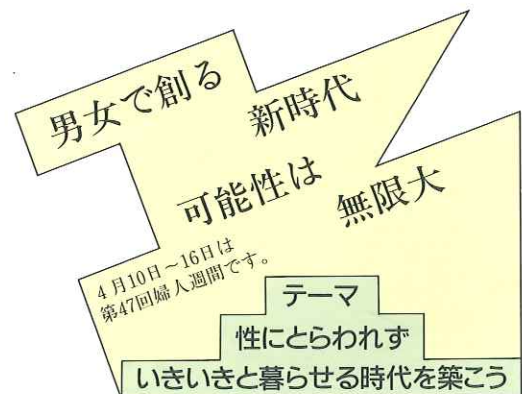
体操をしているある老人グループの物語。彼女たちの熱中ぶり、いきいきと運動する様子、歳をとっても人間はまだまだ素晴らしい可能性を秘めていることを証明した作品。(24分)

### ★「癒しの家」

アルコールやドラッグへの依存症に苦しむ女性たち、シェルターに集まり自分たちの現実、いろいろな問題や感情に向かい歩いていく。(47分)

## 予告

今後、女性問題についての相互理解を深める国際交流、地域とのかかわり、家業の中の問題点などについて取上げる予定です。みなさんからのご意見をお待ちしています。



## 編集後記

男女が対等なパートナーとして認め合い、社会の各分野に共同で参画し、ネットワークを広げ、新しい自分を発見していきたいものです。

ごみ出しは、透明又は、半透明の  
ごみ袋に変わっています。

～ルールを守り街をきれいに～

岡山市

発行/岡山市総務局生活文化部女性政策課

岡山市大供一丁目1番1号

電話(086)225-4211 内線3242

表紙制作/板野淑子

本誌ご希望の方は女性政策課へ